

# ブラジルの絵本で使われる ポルトガル語の形容詞

二井 紀美子

## 1. 問題の背景

幼児期の語彙習得に関する注目は近年高まっている。例えば内田伸子ら（2010）では、語彙力と、しつけスタイル（親の子どもへの関わり方）や保育形態（一斉保育か自由保育か）との関連が指摘されている。また東洋ら（1995）や内田伸子ら（2011）の調査で、幼児期の語彙力と小学校での学業成績に相関関係があることが明らかになっている。つまり、幼児期の過ごし方が就学後の学力形成に深く関係しているのである。

現在、日本には多くの外国人の子どもたちが存在する。表 1 をみてほしい。在留外国人統計（2014 年 6 月現在）によると、0 歳から義務教育を修了する 15 歳までの年齢別人口は、多い順に中国（64,307 人）、韓国（34,182 人）、ブラジル（33,941 人）であるが、在留同国人人口に占める 0 歳から 15 歳人口の割合ではブラジルが 18.9% と最も高くなっている。つまり、日本に住むブラジル人のおよそ 5 人に 1 人が 0 歳から 15 歳の子どもであり、在日ブラジル人コミュニティにとっては子どもの教育が大きな重要課題となっている。

表 1 在留外国人統計 (2014 年 6 月現在)

	在留外国人人口 (人)	0-15 歳人口(人)	0-15 歳人口に占める国別割合 (%)	在留同国人人口に占める 0-15 歳人口の割合 (%)
<b>合計</b>	<b>2,359,461</b>	<b>232,404</b>	<b>100.0</b>	<b>9.8</b>
中 国	721,097	64,307	26.7	8.9
韓国・朝鮮	537,105	34,182	14.7	6.4
フィリピン	223,154	23,137	10.0	10.4
ブラジル	179,406	33,941	14.6	18.9

そこで、在日ブラジル人の子どもたちの語彙習得の傾向を探るために、不就学のブラジル人児童、ブラジル人学校の児童、公立保育園のプレスクールで日本語を学ぶ外国人幼児、幼稚園に通う日本人幼児の 4 グループの、100 語絵カード式語彙調査の結果を比較検討した<sup>1</sup>。その調査分析を通して、品詞 (名詞・動詞・形容詞) のうち、名詞と動詞の正答率にはグループごとの大きな違いはなかったが、形容詞の正答率は日本人幼児とブラジル人の子どもたちでは明確な違いがあることが分かった。表 2 は、同調査で比較した 6 歳児の形容詞「大きい」「長い」「高い」「暑い」の正答率の結果である。ブラジル人には日本語とポルトガル語の両方の語彙調査を実施した。「大きい (grande)」「暑い( quente)」の正答率はブラジル人も日本人もほぼ変わらぬ高さであるのに比べ、「長い(comprido)」「高い(alto)」の正答率がブラジル人の子どもたちは特に低いことが分かる。ブラジル人の子どもたちは「高い」も「長い」もすべて「大きい」と誤答するケースが日本人幼児に比べて多かったのである。また、気になるのは、「長い」「高い」について、日本語でもポルトガル語でも答えられない点である。

表 2 6 歳児の形容詞正答率比較

対象者	不就学のブラジル人		ブラジル人学校のブラジル人		幼稚園の日本人
(対象人数)	(7人)		(2人)		(16人)
調査言語	ポルトガル語	日本語	ポルトガル語	日本語	日本語
大きい(grande)	100%	43%	100%	50%	91%
長い(comprido)	0%	0%	0%	0%	82%
高い(alto)	14%	0%	0%	0%	64%
暑い(quente)	86%	0%	100%	50%	91%

この調査は対象人数が少ないため、一般性に欠ける点は否めないけれども、他の調査でも同様の指摘がなされている。日本の公立小学校 1・2 年生 (7・8 歳) のブラジル人児童 39 名を対象とする調査を行った吉川陽子・本杉敦子 (2006) では「長い」の日本語正答率は 53.85% で、「『長い』については、母語でも『comprido/longo』を期待するところ、『grande : 大きい (12 名)』、日本語で『長い』、『短くない』と答えるなどの混用が見られた」と報告されている。

では、この傾向は一体何に由来するのか考えてみたい。原因はいくつか考えられるだろう。幼児期の教育環境のせいだろうか、それともポルトガル語ではそもそも日本語ほど形容詞を使わないのだろうか。

管見の限り、子どものポルトガル語と日本語の形容詞習得の比較に関する先行研究は見つからなかった。しかし、日本語については、日本の童謡と絵本の中の形容詞・形容動詞を調べた前田敬子 (2012) の研究があり、絵本 50 冊で使われた形容言葉 643 語について分類していた。そこで、本研究では、ブラジルで発売されている子ども向けの絵本に注目し、絵本の中でどのような形容詞が使われているのかを調査した。ブラジルの子どもたちが接する形容詞の傾向を明らかにすることで、「ポルトガル語ではそもそも日本語ほど形容詞を使わないのか」否かを検証したい。

## 2. 調査方法

2012年から2014年までにブラジルで購入した絵本9冊（11作品タイトル）を対象とする（表3の通り）。これらの絵本の多くは、サンパウロ大学附属幼稚園を視察した際に園内の図書室で保育士から子どもに人気のある本や著名な本として薦められたものである。例えば Ruth Rocha の『Marcelo, marmelo, martelo』は初版の1976年から2011年の全面改定版の間に第56版71刷を重ねたベストセラーである。

表3 調査対象

タイトル	作者	版	出版年	出版社
A casa sonolenta	Audrey Wood	第16版	1999年	Ática
	オリジナルは英語「A Napping House」(1984年、Harcourt Brace & Company)			
A Princesa que Escolhia	Ana Maria Machado		2012年	Objetiva
Até as princesas soltam pum	Ilan Brenman		2008年	Brinque-Book
Bruxa, bruxa venha à minha festa	Arden Druce		1995年	Brinque-Book
	オリジナルは英語「Witch, witch, come to my party」(1991年、CHILD'S PLAY(INTERNATIONAL) LTC.)			
Cabritos, cabritões	Olalla González		2008年	Instituto Callis
	オリジナルはスペイン語「Chibos chibóns」(2005年、Kalandraka Editora)			
Marcelo, marmelo, martelo	Ruth Rocha	全面改定版	2011年	Moderna
	初版1976年			
o dono da bola	Ruth Rocha	『Marcelo, marmelo, martelo』同時掲載		
O grande rabanete	Tatiana Belinky	第2版	2002年	Moderna
	初版1990年			
Teresinha e Gabriela	Ruth Rocha	『Marcelo, marmelo, martelo』同時掲載		
Uma letra puxa a outra	José Paulo Paes		1992年	Campanhia das Letrinhas
Você traca?	Eva Frunari	第3版	2011年	Moderna
	初版1991年			

今回の調査では、本文中に使用される形容詞の回数とその種類を数えた。ポルトガル語の形容詞には性数変化（単数・複数・男性形・女性形）があり、さらに形容詞の語尾に縮小辞 *-inho* を付けて「小ささ・愛情・強調」

等の意味を添えたものや、反対に語尾に拡大辞（増大辞）-ão (-ona) を付けて「大きさ・不格好」を強調するもの、そして形容詞の語尾に -íssimo を付けて「非常に」「きわめて」という意味合いを加えた絶対最上級がある。単語によってはそれらの変化が不規則になるが、それらも含めて関連語句はすべて同一語として数えた。

例 bonito かわいい

男性形・単数	bonito	縮小辞	bonitinho
男性形・複数	bonitos	拡大辞	bonitão
女性形・単数	bonita	絶対最上級	bonitíssimo
女性形・複数	bonitas		

### 3. 調査結果と考察

11 作品タイトルでのべ 292 回形容詞が使用されていた。絵本のタイトル別に、形容詞の使用回数と、使用した形容詞の種類の数を一覧にしたものが表 4 である。タイトルによって形容詞の使用回数や種類が大きく異なるのは、すべて子ども向けの話でありながらも、対象とする年齢が異なっていたからだと思われる。例えば「**Bruxa, bruxa venha à minha festa**」は形容詞が一つも使用されていなかった。この本には「読み聞かせは 2 歳から」という記述があった。日本の絵本を調べた前田（2012）でも、絵本 56 冊のうち、0～2 歳の赤ちゃん向きの絵本には形容詞が一切含まれないものが 6 冊あった。

表4 タイトル別形容詞使用回数と使用種類

タイトル	作者	形容詞使用回数	使用した形容詞の種類
A Princesa que Escolhia	Ana Maria Machado	85	58
Cabritos, cabritões	Olalla González	49	16
Marcelo, marmelo, martelo	Ruth Rocha	34	24
Teresinha e Gabriela	Ruth Rocha	32	24
Até as princesas soltam pum	Ilan Brenman	23	21
o dono da bola	Ruth Rocha	20	17
A casa sonolenta	Audrey Wood	17	3
Uma letra puxa a outra	José Paulo Paes	14	11
Você traca?	Eva Frunari	12	12
O grande rabanete	Tatiana Belinky	6	3
Bruxa, bruxa venha à minha festa	Arden Druce	0	0

また、タイトルによって、使用する形容詞の種類が限定的なものとならないものの差がはっきりしている。「A casa sonolenta」や「Cabritos, cabritões」では同じ形容詞が繰り返し使用されていることが分かる。これらの本も比較的年少者向けの絵本で、話の巧妙さだけではなく、言葉遊びの要素が含まれている。とくに「Cabritos, cabritões (子やぎ、大やぎ)」は本文中の形容詞の表記にも工夫が凝らされていた。形容詞はほぼすべて太字で表記し、さらに「**grande** (大きい)」「**médio** (中ぐらい)」「**pequeno** (小さい)」など大小の形容詞は字の大きさも変えている。さらに、同じ単語でも **grande, grandes, grandona** や **pequeno, pequenos, pequena, pequenininha** などのように多くの活用を取り入れている。形容詞でも様々な活用形を持つ外国語 (ポルトガル語) の特徴が表れているとってよいだろう。

次に、使用された形容詞の種類をみていこう。11 作品で使用された形容詞の種類は 104 種であり、合計 292 回登場した。1 作品当たり 9.45 種の形容詞が使われている。一方、前田（2012）によると、ロングセラーを中心に選んだ 56 冊の日本語の絵本には、形容の言葉の種類が 643 語あったという。平均すれば日本の絵本では 11.48 種の形容詞が使われていることになる。単純計算ではあるが、日本語の絵本と比べるとポルトガル語の絵本の使用する形容詞の種類は少ない傾向にあるといえるだろう。

次に形容詞別の使用頻度の高い順に示したのが表 5 である。最も多く使われているのは **grande**（大きい）の 25 回で、次いで **bom**（良い）の 17 回であった。この 2 単語を使用した作品タイトル数はそれぞれ 5 つあるということから、多様なストーリーでも特に使われやすい最頻出単語である。**grande** に比べて、**pequeno**（小さい）は使用回数も使用作品数も少ない。

「gente grande（大人）」のような絵本で使われやすい固定的な表現がないことも影響しているのかもしれない。

さらに、**médio**（中ぐらい）や **sonolento**（眠い）、**aconchegante**（気持ちのいい）は、特定の 1 作品だけで頻繁に使われていたため、実際には子どもたちが見聞きする機会は多くないのではないかと推測できる。反対に、**comprido**（長い）や **cheio**（満ちた）は、使用回数は突出して多くないが、いろいろな作品の中で使われていることから、子どもたちが知る機会が多いと思われる。

表 5 使用回数別形容詞

	意味	使用回数	その形容詞を使用した作品タイトルの数
grande	大きい	26	5
bom	良い	17	5
pequeno	小さい	12	2
médio	中ぐらいの	10	1
sonolento	眠い	9	1
aconchegante	気持ちのいい	7	1
comprido	長い	6	4
pouco	少しの	6	3
redondo	丸い	5	2
cheio	満ちた	5	4
lindo	美しい	5	3
forte	強い	4	2
bonito	きれいな	4	3
enjoado	うんざりした	4	2
enorme	巨大な	4	2
casado	既婚の	3	1
danado	呪われた	3	2
encantador	魅力的な	3	2
esportivo	スポーツの	3	2
novo	新しい	3	2

先に述べた通り、日本に住むブラジル人の子どもたちは明らかに「長い」「高い」といった形容詞の習得率が低かった。しかし、少なくとも「comprido (長い)」に関しては、ブラジルの絵本でも比較的多く使われていることが分かった。

また、日本で実施したブラジル人児童対象の語彙調査で、「círculo または redondo (丸)」と答えるべきところを「bola (ボール)」と誤答する解答が多かった。その際に「ブラジルでは círculo や redondo といった単語は子どもには使われていないのではないか」という疑問が浮上したが、今回の絵本調査では「redondo (丸い)」が 2 作品合計 5 回使用されていたことから、ブラジルの子どもたちは少なくとも絵本を通して「redondo」

を知る機会があることが分かった。

#### 4. まとめ

ブラジルの絵本は、日本の絵本よりも形容詞が使われる頻度が少ない傾向が見られ、「大きい **grande**」の使用頻度が高いことが明らかとなったが、その一方で在日ブラジル人の子どもたちの正答率が極めて低かった「長い **comprido**」については、絵本の中で使われる機会が少なくはないことも分かった。また、絵本によっては「**Cabritos, cabritões**」のように形容詞をあえて太字で表示するなど、形容詞習得に配慮した絵本も存在した（ちなみに「**Cabritos, cabritões**」の中でも **comprido**（長い）は使用され、太字で表記されていた）。

以上のことから、語彙テストで、日本に住み、不就学もしくはブラジル人学校に通うブラジル人の子どもたちの形容詞の正答率が低い要因として、「ポルトガル語は日本語ほど形容詞を使用しない」ということは否定されよう。つまり、要因は、言語的特質によるものではなく、家庭や学校・保育園などの教育環境の質の問題が大きいのではないかと予測できる。この予測をさらに精緻にするためには、実際にブラジルで生まれ育ったブラジル人幼児の語彙調査を行うことが必要だろう。この点については、いずれ稿を改めて論じたい。

#### 参考文献

- 東洋（代表）（1995）「幼児期における文字の獲得過程とその環境的要因の影響に関する研究」『平成4～6年度科研費補助金（総合研究A）研究報告書』
- 内田伸子・李基淑・周念麗・朱家雄・浜野隆・後藤憲子（2010）『幼児のリテラ

シー習得に及ぼす社会文化的要因の影響：日本（東京）・韓国（ソウル）・中国（上海）比較データブック』お茶大・ベネッセ共同研究報告書

内田伸子・李基淑・周念麗・朱家雄・浜野隆・後藤憲子（2011）『幼児期から学力格差は始まるかーしつけスタイルは経済格差要因を凌駕し得るかー』お茶大・ベネッセ共同研究報告書 No.II

前田敬子（2012）「童謡と絵本の表現ー形容詞と形容動詞ー」『仁愛女子短期大学研究紀要』第44号、29-38頁

吉川陽子・本杉敦子（2006）「日本生まれもしくは幼児期来日の外国人児童の日本語能力ーOBC会話テストを利用してー」『第7回母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究会資料集』、22-31頁

---

<sup>1</sup> この調査の結果について詳しくは、二井紀美子・緩利誠（2015）「在日外国人児童の語彙習得の実態ー異なる教育環境間の比較分析を通してー」『愛知教育大学教育創造開発機構紀要』第5号（2015年3月掲載予定）を参照されたい。